

第1回区民が取り組む環境エコ部会

日 時 平成20年9月30日(火) 午後6時30分

場 所 川崎区役所7階会議室

午後 6時30分 開 会

出席者(敬称略)

委員 10名

菊地弘毅、木島千栄、須山令子、田辺富夫、富田順人、長島亨、長谷川幸子、原田歩、藤岡玲子、古川博子

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の順守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

2 議 題

(1) 部会長の選出

事務局 部会長の選出を行う。専門部会の部会長は、川崎市市民会議条例施行規則第4条第3項に「専門部会に部会長を置き、専門部会に属する委員の互選により定める。」と規定されている。立候補または推薦をお願いしたい。

委員 今までいろいろな環境の分野で活動している原田委員がよいのではないか。

事務局 ほかになければ、原田委員を部会長に選出することでよいか。

各委員 異議なし

事務局 <部会長が部会長席に移動し、就任のあいさつを述べる。以後の議事進行を委員長に依頼する>

部会長 区民会議運営要綱に「部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、部会長が予め指名する委員が職務を代理する。」とある。須山委員に職務代理をお願いしたいと思うがいかがか。

各委員 異議なし

## (2) 審議テーマについて

部会長 事務局より資料の説明をお願いします。

事務局 <配布資料に沿って説明、市や区が行っている環境対策について解説>

部会長 審議テーマについて、各委員の意見をいただきたい。

ご意見がなければ、現在部会名を仮称という形で「地球環境とエコ」という簡潔な言葉でまとめている。テーマ自体は大きく「地球環境とエコ」と決めたいと思うがいかがか。

各委員 異議なし

## (3) 部会名の決定

部会長 次に部会名を決めたいと思う。何かご意見は。

委員 市や区の人がやってくれるというのではなく、みんながやるんだよとわかるように、「区民が取り組む」「区民一人一人が取り組む」何々部会というネーミングが非常にいいと思う。

部会長 環境・エコ部会だけだと、どこの誰が取り組んでいるかわからない。主体はあくまでも川崎区民が取り組むんだという提案。例えば「川崎区民が取り組む環境・エコ部会」のように、地球環境問題だと大きく構えないで、地元の自分たちの問題だと捉える名前は、長過ぎると思わなければよいのではないか。主語を入れた方が明確で良いと思うがいかがか。

委員 川崎を取って区民としたらどうか。

部会長 「区民が取り組む環境・エコ部会」。地球も取ってしまっているのではないか。

委員 良いと思う。

委員 身近な環境からということで、良い名前では。

部会長 「区民が取り組む環境・エコ部会」と決定してもよいか。

各委員 異議なし

#### (4) 審議課題について

部会長 課題の検討に入りたい。委員からパワーポイントによる提案があるとのことなので、参考に説明を聞いてから審議に入りたい。

委員 今身の回りで起こっている自然災害は、地球温暖化の影響によるものが多い。本当の意味での地球温暖化阻止のためには、地球規模での取り組みが必要。ただ、根本的な解決策ではないかもしれないが、自分たちの地域を次世代に残すため、自分たちができることを身近な取り組みとして実施しなければならないと思い、今回提案をさせていただく。

<以下パワーポイントによる説明>

川崎市では、市のイメージアップと持続可能な地域実現のために、産業都市として地域の強みを活かしつつ、環境に配慮し活力に溢れる街づくりをすることを目指し、取り組みを進めている。

平成19年度の公共用水域及び地下水質の調査結果によると、現在市は水質についての環境基準をすべてクリアしている。「多摩川におけるアユ遡上調査結果」では、80万匹のアユが遡上したという結果が発表されている。多摩川水域は非常にきれいになったように思うが、あくまでも国の基準であって、世界的なレベルの基準ではない。

次世代により良い環境を残すため、対策として3つ考えた。

川崎市は産業都市。その特徴を生かしながら環境対策を実施するには、交通網の見直しも有効だと思う。交通網の見直しの中には、デマンド交通システムという、ITシステムを使うことで、希望する場所から場所まで、ドア・ツー・ドアで移動を提供する新しい交通サービスの考え方もある。

2つ目として、多摩川にホタテガイなどの貝類を沈めて、水を浄化する方法。実際に埼玉の戸田で行われているが、そこではイケチョウガイという貝を使っている。イケチョウガイは淡水真珠の養殖もできるため、一石二鳥だということ。大阪府でも行っている。

多摩川にはどんな貝が生息できるのか環境局に問い合わせたところ、国の機関である水産総合研究センターを紹介してもらった。そこによると、潜砂性の二枚貝で、ある程

度浄化機能が期待できて成長が比較的早い貝は、熱帯河口域に生息するヤマトシジミ、イソシジミ、アサリ、サビシラトリ、ソトオリガイ、オキシジミなどが非常に有効だという話を聞いた。

3つ目の資金調達方法というのは、区民会議には適さないかもしれない。ただ、なるべく予算を市に頼るよりも、例えば環境コミュニティファンドをつくって、地域の人たちが投資する。その地域の投資したお金をもとに環境に使い、それをファンド化して、配当として区民の人たちに戻す。こういったことで、例えばCSR活動をしている企業も参加することになれば、こういった資金の循環がうまくいくと思う。

これらが実現するとは考えにくいかもしれない。しかし、例えば貝を使った方法であれば、区民会議で方向性だけを決めて、あとは地域に戻って、学校や町会など地域の人たちが一緒になって、多摩川に貝を沈めようという話し合いになれば、地域との連携もできるのではないかな。

部会長 この意見を参考にして、委員のご意見を自由闊達に発言していただきたい。

環境局では、環境推進のリーダー養成に取り組んでいる。全市で200人もいながら川崎区は10人ぐらいいない。第1期区民会議には、環境リーダーはいなかった。ほかの区は一生懸命熱心に取り組んでいて、区の中には、区民会議に2人ぐらいい入っている区がある。今回環境リーダー養成の卒業生が川崎区でも入ったということで、積極的なご意見をお願いしたい。

委員 川崎市が推進している地域環境リーダー養成講座は、現在11期の講座を開催中。メーリングリストをつくって、1期から10期の方でメールアドレスを持っている人は情報交換をしている。みんなで年に1回は集まって何かしよう、活動報告しよう、次のステップを見つけようということで、エコフェスタというイベントを毎年3月に設定して、去年、ことしは中原市民館で開催した。

環境問題に対する取り組みの目線は、人によって違うと思う。ごみ問題、放置自転車、緑など。私は緑を増やすことを子どもと一緒に取り組んで、次の世代につなげていきたい。環境リーダーの研修の中でも、子どもに対するエコプログラムの作成を選んだ。区民会議で環境というテーマが選ばれたので、やはり子どもと一緒に取り組む環境エコを採り上げたい。

個人で活動している人や何かの活動団体に入っている人に対して、区民会議では環境・エコに取り組むのでぜひ一緒にやろうと誘いかけるのが良いのでは。その活動経過をそれぞれ持ち帰ってもらって、区民会議の中でもそれを糧として、また広げていくということを考えていければと思う。

ごみの集積所をきれいにする、分別を徹底する、エコキャップを集める、商店街を花

で飾るなどの取り組みをするにしても、こういう活動をやっているということを小学生なりが手書きで作ったポスターやチラシで広報する。「ごみはきちんと分別しましょう」「花を植えましょう」など、子どもが書いたポスターを見れば、そこで分別しないで捨てることはやりづらいと思うし、きれいに植えてある花を切るなどという変な事件もなくなるのでは。

この部会の審議内容を、それぞれの委員が出身団体に伝えるのと並行して、私は地域環境リーダーの方々に話を持っていこうと思う。他の区ではこんなことをやっているという情報提供をお願いするなど、ネットワークをつくりつつ、子どもと一緒にやっている活動ができればと思っている。

委員 川崎区として何が問題なのか、問題意識を持ってテーマを絞り込んで、どうしたら解決できるかという解決策を考えた方がいいと思う。

委員 そのとおりだ。具体的なテーマに関しては、1期の区民会議ではまちを花で飾るという実績がある。その実績と、反省点もあると思うのでそれに上乗せする形で継続していくのも一つの方法。まちを花で飾るというのはいいテーマだと思う。

部会長 短時間で終わるものだったら、ここで取り上げなくてもとっくに解決している。難しいから問題として残っているので、誰が、いつからと具体的に決めて取り組んでいく必要がある。1年だけでなく、軌道に乗るまでは2年間同じ問題に取り組むというのも可能だと思う。

まちを花で飾るという取り組みは、アメリカンフットボールワールドカップのために来てくれた人に良い環境をつくって、ようこそ川崎にというイメージをつくり出そうということで行った。

提案者でもあり、また海風の森をMAZUつくる会の代表でもあるということで私が引き受け、1年目はそれなりの結果が出せた。1年目から2年目、2年目から3年目という形で充実させたいと思っている。そういう形で具体的に何をするという主体的なご意見を出してもらおうと良いのだが。

事務局 テーマが環境・エコと決まっているので、では、環境・エコに関する課題が何なのか。それを皆さんの地域や団体で現在課題となっていることを出していただく。それを、最終的にどれにしようかと絞っていく。今度はそれを解決するためにはどうしようかと絞り込んでいけば、結構話はうまく進んでいくと思う。

委員 第1回の区民会議で参与の方が言われたことで、痛切に感じたことがある。今、結

論が出る問題について取り組むべきだと話が出ていた。花を実際に自分で育てて、実行したような経歴ができればいいが、ただ空論で、どこかの誰かに任せればいいなんてことは、この会議では絶対にだめだということを肝に銘じた。

第1期のとき田島で区民会議集会を開催した際には、もろにそのような意見に直面した。区民の皆さんが賛同し、参加できるものでなければ、提案しても何してもだめだと私は痛切に感じた。

委員 多方面からの取り組みは必要だと思う。1つだけ決めて、その結果を出すのはなかなか難しい。例えば打ち水でも、6商店街だけでなく、川崎区内の商店街みんなで一斉に日にちを決めてやって、打ち水をする前とその後の外気温の変化を記録していくと、何かデータが出て目に見えると思う。結局、外気温が下がれば、エアコンを使う頻度も減り、それがCO<sub>2</sub>の排出にもつながるので、循環的によくなっていくのでは。

屋上緑化は今公共施設だけか。神奈川県は補助金がない。

委員 民間にも屋上緑化で幾らかでも補助が出れば、積極的にやる企業が出てくると思う。東京ではかなりやっている。

部会長 川崎市でも、個人の家にも条件が合うと補助金が出る。条件が少し厳しいという話は何度も聞いた。ただ、申し込んだらいっぱいだったという話も聞いたことがある。

委員 壁面緑化は非常に有効だということだ。それをきちんと通年的なデータを残せば、市民にもわかりやすいと思う。川崎の医師会では気管支ぜんそくを何十年も調査しているが、それに合わせて排気ガス、NO<sub>x</sub>、亜硫酸ガスなどをずっと調査している。どの辺がよくなっている、どの辺が悪いというデータが経時的に出るようになっている。続けてやるのが大事だ。

委員 打ち水については、去年の7月28日に小田公園でやって、びっくりするほど結果が出た。確かに下がる。

委員 2度ぐらい下がる。

委員 そういうのを、区の中で日にちを決めて一斉にやるといい。

委員 いろいろ意見が出たが、打ち水や緑化のような簡単なことから始めて区民の関心を集めて進んでいったほうがよいと思う。

最初にパワーポイントで説明があったことももっともだとは思いますが、それをどうやってまちに知らせるか。また、水の浄化のようなことには相当に費用もかかることであるし、それをすぐに区民会議でやることはできないと思う。区民がそれぞれそういったことを認識して、初めてお金も使えるのではないかと。

委員 最近ゴーヤーをこども文化センターや家庭でも育てていた。しかし、土壌をしっかり管理していなかったためにうまくカーテンができず、実もならなかったなど、いろいろことは経験している。ゴーヤーは小さな空き地や鉢植えでもでき、お金もかからず、エコにもなる。それを区民会議で取り上げて、区民にやってもらってはどうか。誰でも植えればできて、エコにつながる。1年やってみんな経験があるから、来年はやろうといえ、必ず良い結果が出ると思う。

委員 区民会議のこれだけの人数で何ができるかを考えると、身近ですぐ手がつけられる問題から取りかかっていると難しい。市の地球環境・エコに関する取り組みを参考にしながら、地域にそれを持って行って広めるという形はどうか。例えば緑のカーテン大作戦を役所でやっているが、それを各地域の家庭に持っていけば、またエコが広がると思う。

役所の庁舎でゴーヤーを植えたら実が採れて、食堂で何日か出したところ、非常に好評でたちまち品切れになったという話が新聞に出ていた。そういった取り組みに便乗して区民会議でもやっていければ、簡単に取り組めるのでは。本当に難しくても何も手につけられないということになるよりは、1つずつ一歩一歩進んでいったほうが良いと思う。

委員 私はことしゴーヤーを失敗した。土からつくらないといけないと指導いただいたが、2つしかならなかった。難しい。

委員 きちんと指導してもらえればならゴーヤーも良いと思うが、私は先ほどの意見に賛成で、子どもを巻き込みたいと思っている。エコをやっている小学校はたくさんある。新町小学校は3年ぐらい前から、不要な電気を消そう、帰るときはすぐ電気を消そうということをやっていて、表彰されているぐらい。小学校の児童などにできることがあれば、そういう意見を出してもらえれば、私たちPTAもかかわっているから、少しは学校から協力できると思う。

委員 地域では結構やっているところもある。うちの地域でも例えば祭礼で、各町内の掲示板に張る案内は、子どもに描いてもらっている。お祭りが終わったら、それをきちっとはがして、今度は文化祭でその子どもたちの作品を飾ってあげている。子どもたちが一緒

にやってくれているから、描いたものも無駄にしないで、何かの機会に皆さんに見てもらおうということになる。そういうことを各町会なり地域に紹介すれば、全体に広がっていくと思う。

委員 スーパーや市民館でも張ってもらうなど、いろいろなところで目につくようになると、区で何かやっているんだな。しかも、お子さんも頑張っているんだという少しずつ広まっていき、次の展開につながる。

委員 興味を持てば参加してきてくれるということで、子どもたちの参加型という形で何年も前からやっている。

委員 うちの地域では社会を明るくする運動のときも、小学生に絵を描いてもらっている。もし区民会議で子どもたちに絵を描いてもらおうという話になれば、お願いにいくことはできると思う。

委員 打ち水を全商店街でというのも、土、日でやる。市政だよりの区版にも子どもが水をまいている写真が載っていたが、子どもの写真だとみんな見る。何日にやるというポスターを子どもに描いてもらって、その日で終わりではないというところが、その次の展開につなげるという意味で先ほどの委員の意見は本当にすばらしい。打ち水は夏だけだが、それをやったということを秋にも冬にも知らせることで、みんなの心に残るように、知らなかった人もそれによって知るよすというのは、工夫のしがいがある。1回実績があるので、全商店街は無理だとしても、区の半分が参加したという実績が作れば、さらにPRを重ねて2年目はどうしようかと考えると楽しそうだ。

委員 大師河原周辺エリアで、水辺の楽校の3校目がオープンする。多摩区にもあるが、そこでは子どもが勉強したり、ボートに乗ったりしている。こういう取り組み方だと、子どもも一緒に引き込める。例えば多摩川にシバザクラを一緒に植えようだとか、いろいろな方法があると思う。

部会長 3校目というのはもう既にオープンしたのか。

事務局 これからだと思う。水辺の楽校は既に中原と多摩で2校ある。水辺の楽校というのは、NPO団体の多摩川エコミュージアムが主催しているものだが、例えば多摩川の源流を探しに行ったり、河口の干潟を観察したり、子どもたちを巻き込んだ取り組みをしているので、大変評判は良いようだ。



委員 ボートを復活させたり、渡し船協議会というのも立ち上げたりしている。

部会長 せせらぎ館に鈴木さんという方がいて、何年か前に誘われて、第1回源流全国大会というものに泊まりがけで行ったことがある。物すごいパワーと行動力があり、次から次へとアイデアがあふれてくる、驚くような人。そういう人がいないと、長続きしない。夏になると、子どもたちを何十人と連れて源流でキャンプをやる。母親も安心して協力するし、ああいう組織が立ち上がったらすごい。我々が簡単に取り組んだら、立ち上がる前につぶれちゃう。あの人はすごい。

委員 今話しているのは夏のエコ。冷房については役所も上着を着ないだとか、いろいろな方策を取っている。なかなか難しいが、冬だって温度や湿度を一定にするような工夫はある。夏だけでなく、オールシーズン考えるのも必要だ。小学生と一緒にやるのも重要だと思うが、冬のエコについても何か考えて、みんなが協力してできるものがあればいいのではないか。

部会長 今委員が言ったように、本当は打ち水やゴーヤーというのは夏の暑い時期、ちょっとした機会にやるということで、環境問題に興味を持ってもらう雰囲気づくりという効果しかない。

ゴーヤーは現実には5月ごろだが、種をもらった時期がすごく遅かった。みんなで分けたが、全然芽が出なかった人もいた。僕は偶然十何本全部出た。土がうまく成功して、水枯れがなかった。一度水枯れしたらだめ。ゴーヤーなんて1年切りではなく、種は安いし、実から取った種をとっておけば翌年またまくことができる。種の確保は特別金のかかるものではないから、もっと大々的に地域の人が進めれば、ちょっとしたところでもすぐ育つ。

だからこういうものは、結局大きなテーマではなく、下支えのようなもの。だれでもお金と時間をかけなくても、芽が出てしまえば、あとは水上げだけだから長続きする。例えば計画の中で、何月何日に打ち水を全市でやろうとか、このころにまけば一番効率的だというときに一斉にゴーヤーの種をまこうとか、芽が出ない人には出た人が分けるとか、そういう取り組みをやれば、それなりに成果は上がると思う。

今話が出たように、冬場を含む通年でやる施策は何があるか。厚みと重みのあるもの。それが大成功にまでならなくても、周りの幾つかの施策が成功すれば、ある程度成功したということになる。

委員 うちの町内の方が、自分で材料を持ってきて公園にゴーヤーの棚を一生懸命つくた

ら、公園のそばの家から、そんなものをやられたら暗くなると苦情が来た。今度は市から、公園にそういうものを植えてはいけないと言われて、一生懸命つくった棚を全部壊したという話があった。公園ではやれない。だから各家庭で、年間通してでもできるものを区民会議で考えればよい。ゴーヤーに限らず、ほかのものでも器用に緑のカーテンをつくっている家庭はある。

部会長 私の兄弟はゴーヤーと一緒にカラスウリをまいた。実は食べられないが真っ赤で見事だから、ああいうのと一緒に植えると季節感も味わえて楽しい。特にあれは1年やれば根から出てくるし、多年草的なもの。

あともう少し太い、半年、1年ではなく、今後の区民会議にもつながっていく施策が何か見つければ最高だ。

委員 1期の取り組みでまちを花で飾るというのをやって、最後に報告書をつくったと思うが、花で飾るというテーマを次はこうしたいといった話が出たのであれば教えてほしい。今ゴーヤーの話が出ていたが、ゴーヤーは春から夏にかけて育てるもの。1つのテーマの持っていき方としては、通年を通して緑のあるまちをつくるということもあると思う。そういう点では、1期で取り組んだ花で飾るというのも緑なので、参考までに聞かせていただければ。

事務局 まず区民会議で、アメリカンフットボールのワールドカップが開催されるということで、区のイメージアップ、おもてなしということで、まちを花で飾ろうと始まった。川崎駅から川崎球場までの動線上にプランターを設置したり、区民に対して自宅の塀などの目立つところに花を飾ってほしいという呼びかけをした。また、市役所通りのイチョウをきれいな形で整えるといった取り組みをした。それはワールドカップを終わったらおしまいということではなく、海風の森をMAZUつくる会に協力していただいて、その後も周辺の商店街に継続して現在も花を植えている。

川崎区としては今後、海風の森をMAZUつくる会のご協力が得られればという前提だが、商店街の範囲を広げ、まちを花で飾るエリアを広げていければと考えている。

部会長 実際やった身からすると、1年目はワールドカップのためという大きな目的があったので、みんな入れ込んですごかった。だから、多摩の健康の森へ行って竹をもらってきて、支柱を作ったりした。その作業も大変だったが、アピール力もあったから70～80%成功したと思う。

1年目はワールドカップのある7月に間に合わせなくてはということで、ハゲイトウには少し早いところをビニールカバーを被せたりして強引に芽を出させた。ことしは5

月からやらなければというので、市販のマリーゴールドを買って植えた。ことしは東田通り商店街もやってくれというので置いたが、現実には水やりが一番大変。また、途中である程度汚くなったら、新しい花を植えないといけない。今がその時期。ビオラをやることにして、うちで芽を出させてもう大きくなっているが、これ以外に現在800本ぐらい苗を注文していて、10月初めに届く。そうしたら早速植えて、プランターに植えかえるという段取りは済んでいる。

それから、プランターを200器買ったが、プラスチックだから、自転車にぶつけられて壊れて、1年たって100しか残っていない。それがもったいないので、同じ大きさをスギ材を買って、海風の森をMAZUつくる会のメンバーの材木店の人に切ってもらった。それをみんなで組み立てて、150器作った。壊れたものと交換する形で配置している。木のプランターは全然壊れない。5年くらいは持つと思う。プラスチックだと600円のところ900円くらいになってしまうが、手間はただ。ことしも増やすつもりだ。

最終的には、小さな苗から大きい苗へ育てるまでの場所と、置いてからの水やりが問題となる。商店主に1日1杯水をやってくれと頼むが、やってくれる人もいるが、やってくれないところはだめ。ああいう取り組みは1つの団体がやった後、周りの関心のある人が取り組んでくれると、特に花を置いたところの人が関心を持ってくれれば、すごくやりがいがあるし、長続きする。

委員 海風の森をMAZUつくる会だけでなく、近所のみんなが協力するという形になれば一番いい。

部会長 水をあげない店には、我々がつくってここへ並べて、あなたの店の前をきれいにしてあげたんだから、捨てる水1杯でいいから上げてくれと言っている。それでやってくれるところもあるが、やってくれないで今回辞退したところもある。

市の緑政担当部署はもっと悪い。第3庁舎の前に10個ぐらい置いたが、水をやらない。緑の維持管理をする責務がある部署なのに。だから、今回は置いていない。水を上げないところには置きませんと。

委員 それはまずいのでは。

部会長 だから、区長から直接こういうことを伝えてほしい。本来商店街にプランターを置くのも許可が必要で、許可を申請したらだめだと言われるようだ。役所も少し感覚を変えてほしい。

委員 少し太いテーマをという話が出ているが、ゴーヤーにしてもハゲイトウにしても花

にしても、それだけでとても大変で、太い柱になるのではないか。今の話を聞いて、すごく大変そうだ。ゴーヤーについては実は失敗例もたくさんあるとか、アメフトのときにすごくきれいに見えたのは、こういう努力があったからで、目に見えないところで枯れて撤去したり自転車につぶされたとか、失敗したことも含めて、作文なりポスターなりにしてもらって、次につなげていくというだけでも、大変なことだと思う。次の年には、みんなで成功させようという、すごいプロジェクトになると感じた。

委員 うちの患者さんはお年寄りが多いが、一番簡単なグリーンカーテンということでアサガオを勧めている。アサガオは水やりもそれほど要らないし、放っておけば花も咲くので手間がかからない。結構部屋が涼しくなったという反響はある。

部会長 結構茂るから。

委員 花を飾ろうと最初に区民会議に出たときに、一番反対したのは部会長。水やりはだれがやるのだと。

委員 最初からわかっていたのか。

委員 一番反対した人が先頭に立って水をやってくれて、ハゲイトウを植えてくれて、本当にすばらしい。

委員 さっきの屋上緑化だが、夏だけではなく、冬の室温を上げる効果もある。通年ということでいえば、効果は大きいと思う。

あとはマイバッグ。エコバッグという名前でスーパーで売られている。女性は持っている人がほとんどだ。かなり普及している。男性でも持っている人がいる。

部会長 この間、国際環境フォーラムに行ったところ、エコバッグをもらったので、鞆に入れて持ち歩いている。環境リーダーの人が言うには、2枚も入れておけば、スーパーへ行ったとき、両方でみんな荷物を持てる。ビニール袋断れるわけだ。オーケーストアでは袋をくれない。お金を取る。また、レジを出たところに、不要な段ボールの箱をいっぱい置いてあるので、みんなそれに入れて持っていく。商店が徹底すると、レジ袋は自然となくなる。一斉にやらなければ。

もう一つ。ペットボトルのキャップをあちらこちらで集めている。なぜかという、これ400個で10円になる。800個集めて20円になると、ワクチンを1本買える。回収して、リサイクルメーカーにあって、それからエコキャップ推進協議会を経由して、ワクチン

の寄贈団体へいって、発展途上国へ行くという流れ。

横浜の小学校でやっていて、1クラスが1週間で2800個集めたという話だ。先日飯塚議員とたまたま話したが、事務局がキャップでいっぱいになっているそうだ。中原区区民会議でも何か取り組みをして集めたい。

横浜の場合には、小学校の中で環境何とか委員会という委員会を立ち上げて、10人ぐらいの委員で議論をしていた。今出ている子どもを巻き込むという話で言えば、子ども中心に何か行動を起こして、そこへ町会、PTAなどが入っていく。川崎区内には小学校が20校、中学校が10校ある。そこでキャップを集めて、人が関わっていけば大きなつながりができる。

社会を明るくする運動では、多くの人に参加して、区内一律ではなく地区ごとに特色のある活動をしている。そういった、実績のある団体が各地区できているのだから、それがうまく活動してくれれば、どんなことでもできると思う。

委員 キャップをとるということは、その下のペットボトルを飲んでいるのだから、環境にはよくない。

部会長 ただ、現実にはそれをやるために買う人は少ない。落ちていたのを拾ってくるとか。まちの中もきれいになる。子どもを中心にポスターなどをつくってもらうと、1つの形になるのでは。お金もかからないし、一番簡単だと思う。

委員 随分前にPTA協議会でもキャップを集めませんかと言ったのだが、反響がなかった。核になる学校なり、音頭を取る人がいないと、キャップがたまっていくだけでその後が続かないことになりかねない。だれが集めて、どうするということまでなかなかいきづらいのが現実。環境は大切なものだとわかっているけど、自分には余り関係のないものだと思うことが多い。音頭を取る人、まとめる人がいないと。それを部会長みたいな人がやってもらえるといいのだが。

部会長 海風の森をMAZUつくる会のメンバーにも、キャップを集めている人がいる。みんな集めているが、それをどうするのかということは知らない。

委員 子どもたちはワクチンになると知っている。

部会長 私はワクチンになるのだと、インターネットで調べて初めてわかった。その程度だから、これをいろんな方法で普及する。区民会議の結論として、例えば市政だよりの区版に掲載するとか、子どもがつくったポスターなどを各町会の回覧に入れるとか、あ

ちらちらに張るとか。1カ月のうちに、例えば5のつく日はどこに集めるという計画をつくる。キャップは場所をとらない。段ボール1つにすごく入る。それを学校なの空き教室などに持ち込んで、1カ月に1回、役所の車なりで回収してリサイクル業者へ持っていく。こうすれば人と人とのつながりも出てくるし、学校がもっと身近になるし、大人が入っていくことで、子どもの学校内の生活態度も大きく違ってくると思う。そのように、金がかからないで簡単なものをやる組織をつくれれば、それなりにすごいのでは。

事務局 ペットボトルのキャップは廃棄物なので、廃棄物処理法にのっとった規制がある。中原区役所でもキャップを集めて、NPO法人ライフスタイルというところに譲渡していると聞いている。中原区の場合は回収費用がたまたま無料であったが、通常であればキャップを売るお金よりも、回収費用のほうが高くつくことが問題になる。それをだれが負担するか。法律上、行政がやるのであれば、整理しなくてはならない問題がある。それをどうやってクリアしていくのかを考えていかないといけない。

部会長 調べると、リサイクル業者が、この近くだと横浜市青葉区にしかない。そこまでどうやって持っていくという問題が確かにある。

委員 子どもを参加させてポスターをつくるという話が出ていたが、水道局が節水しよう、電力会社が節電しよう、ガスはこうだという広報は十分にされているが、本当にそれが実践されているのか。電球を白熱電球から電力消費の少ないものに変えるなどは大分行き届いているが、この区民会議でもっと具体的に広報板や家庭向けのポスターを作ったらどうか。

私は、5年前に太陽光発電のパネルを屋根に付けた。使い切れない電力は電力会社が買ってくれるが、設備費がかかる。だから現実には精神的な面で、節電など家庭でもできるいろいろなエコの取り組みを繰り返し訴えるのも必要だと思う。

委員 子どもを巻き込んだエコ活動という話だが、大師公園で桜の時期に、近くの小学校3校の子どもの絵を桜の木に張りつけた。子どもの絵は無邪気で素晴らしいので、だれもはがす人はいない。それまで桜の時期には、木の下でバーベキューなんかをやってすごく汚れていたが、絵を張ってから汚れなくなった。子どもを巻き込んでうまくいった例だが、そういうことを他でもできないか。町会へ子どもの絵を配って、それをごみの集積所なんかに置くなどの方法もある。

部会長 ほかに意見はないか。

結論としては、打ち水、ゴーヤーなどは一時期に限るかも知れないが、ことしだけで

終わりにほしない。そういった環境に興味を持たせる施策を行う。それが場合によって、例えばまちを花で飾るという形で通年通してやるとなれば、太い施策になる。

そして何をやるにしても、ポスターを描いてもらおうとか、実際に行動を一緒にしてもらおうなどという形で、子どもを巻き込んで行う。特に継続を前提とするということで、後で幹事会などで話を整理させてもらって、次回には皆さんの意見を絞り込んで、もっと具体的にこれをやろうという形にする。場合によると、2本立てになるかもしれない。いつ、どこで、だれが、何をするんだということで、きちっとした計画を次回練り上げるという形でよろしいか。

各委員 異議なし

部会長 では、そういうことにしたい。

あともう1点。今日傍聴に来られている牧野さんは、環境リーダーの卒業生として、4つぐらいのグループに分かれて活動を実践している。そういう実際活動している団体の方に次回来てもらって、15分～20分程度話を聞きたいと思っている。ぜひ了承いただきたい。

### 3 閉 会

事務局 <専門部会の日程調整、区ホームページでの会議録公開、市政だより川崎区版への記事掲載を説明>

午後 8時30分 閉 会